

## 薬より大切なこと

リハビリ型デイサービス リハサロン祖師谷

河野礼子

ひとし先生

女子大のご講義後におにぎりを食べ駆けつけて下さり、放課後まで貴重なお話を賜り、誠にありがとうございました。

Facebook で拝見させて頂いておりましたが、実際にお会いしての優しく穏やかで誠実な切れ味あるお話に一層ファンになりました。

「良い処方は自分のためだけにしない」というご発言に本当にしびれました。ご発言のように「良いケアを独り占めしない」という覚悟で、認知症改善を検証するデイサービスを開業し、根拠を証明するため看護師資格を取得し発信のため「前例を変える」ゆき様のジャーナリズム分野で学ばせて頂いております。

Disease mongering のお話を伺い、手掌多汗症のTVCMを見た小学校2年の娘が、「ママ、病院行かなきゃ。紙が濡れちゃうの。治るって。」と伝えられたことを思い出しました。

我が家の25歳の長女も幼少期から同じ症状でしたので、長女に確認すると「病院に行かなくても」と、賛成しませんでした。今年歯科医になった長女は、薬の成分なども考えての意見かもしれません。繰り返し流れるCMに子供本人から希望されたら、受診してしまう保護者も少なくないかもしれません。

食物アレルギーのある子を持つ保護者としては、薬を飲んで入院経験もあり薬にも慎重になりますが、それでもCMから「あなた困ってますよね。この症状が出たら、受診しましょう。」と声を掛けられているように感じると「行かなきゃ」と心が動きました。早期発見・早期治療になるなら、必要な情報ですが、気づかなければ医療費をかけるまでもない症状へ薬への誘いがあることに不安を感じました。小2の娘に手汗が気になるのか改めて確認すると「だって、紙が汗で濡れるのいつもじゃないけど、テレビと一緒に一緒だから行った方がいいんでしょ。」との回答でした。

情報を得た後に、本当に必要なのか、考える機会となりました。ありがとうございました。

精神科の疾患は誰にもおこり得るからこそ、回復や改善を目指しての介入効果を伝えていきたいと考えています。医療者や専門職が回復や改善をあきらめないことで、道が開けると信じ実践してきました。

精神科開放病棟での看護実習では、最小のユマニチュード介入により信頼関係を築き、ご本人の発言から希望される生活への援助を重ねました。数週間の介入でしたが、不安に感じていることやできないことをご本人から発信頂き、一緒に考え解決を重ね、一人でもできることを体験頂き改善につながった過程をユマニチュード学会にてF-SOAIIP記録を活用し研究発表しました。

医師や専門職から限界を伝えられても、改善に繋がった経験から、本人の希望実現のために効果的な説明や提案を行うコミュニケーション技術の伝達を目指しています。

対人援助では面談による効果が服薬や生活管理にも大きく影響するため、F-SOAIIP記録を活用することで、加算や保険点数として面談を報酬化し、処方薬や支援内容についてもデータ分析により適正化の検証になると考えます。

精神科領域における対話や支援について学ばせて頂きたい、今後ご指導の程よろしくお願い申し上げます。「こころの病気と歯科治療」は早速注文させて頂きました。

今後ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。